

8

18

014036-000-9

8-18

婚姻例 (神道禊派)

坂田 安治 / 著

M19

ABB-0290



婚姻例

完

朝香園

一冊

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

一八号

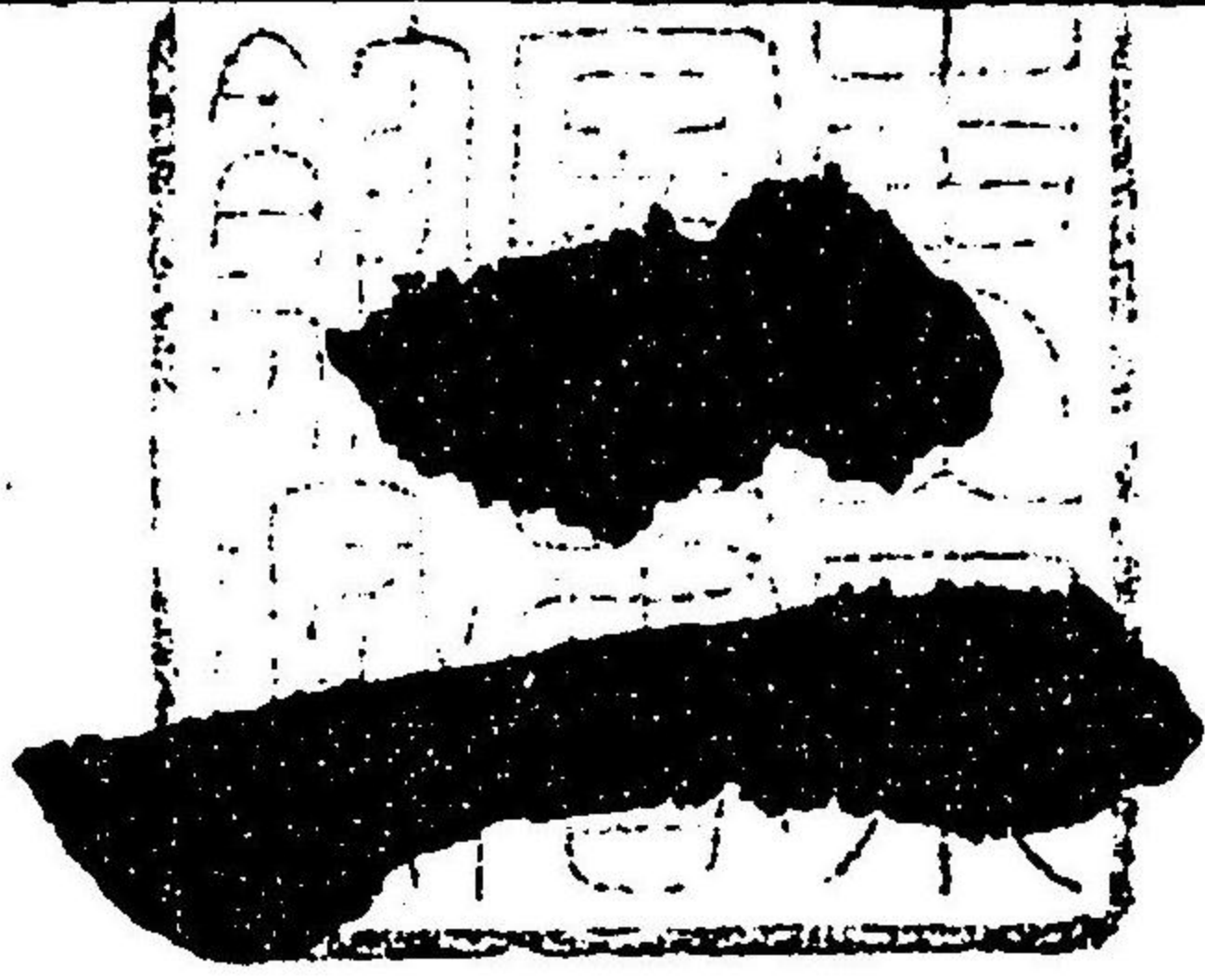
一八号

一八号

一八号

明治十九年四月十六日 内務省 勅令

靈
君
群



品之祖

鐵安書

婚姻いんこんは人ひと乃ひとよ一世あきことの大禮たいらいひて其本源おんもとを温なごぬまば畏かしこれども天地あめつちの

初發しつぱつの時とき伊邪那いざな那岐なぎ大神おほみかみ伊邪那いざな那美なみ大神おほみかみ二柱ふたはしら命のみこと天津神あまのつかみ比大ひおほ

御言みことによらて國土くにつち修理つくりにかため固成かたまるたまひ一時とき創つくりより人の世

とあらせても惟神かみみかみその御みことたきてに隨まもひて夫婦とつごの道行みちゆかせられて

在あるは外とつこ國くにもて最重事いそがしきことにして其法そのりを立置たておかくと聞き

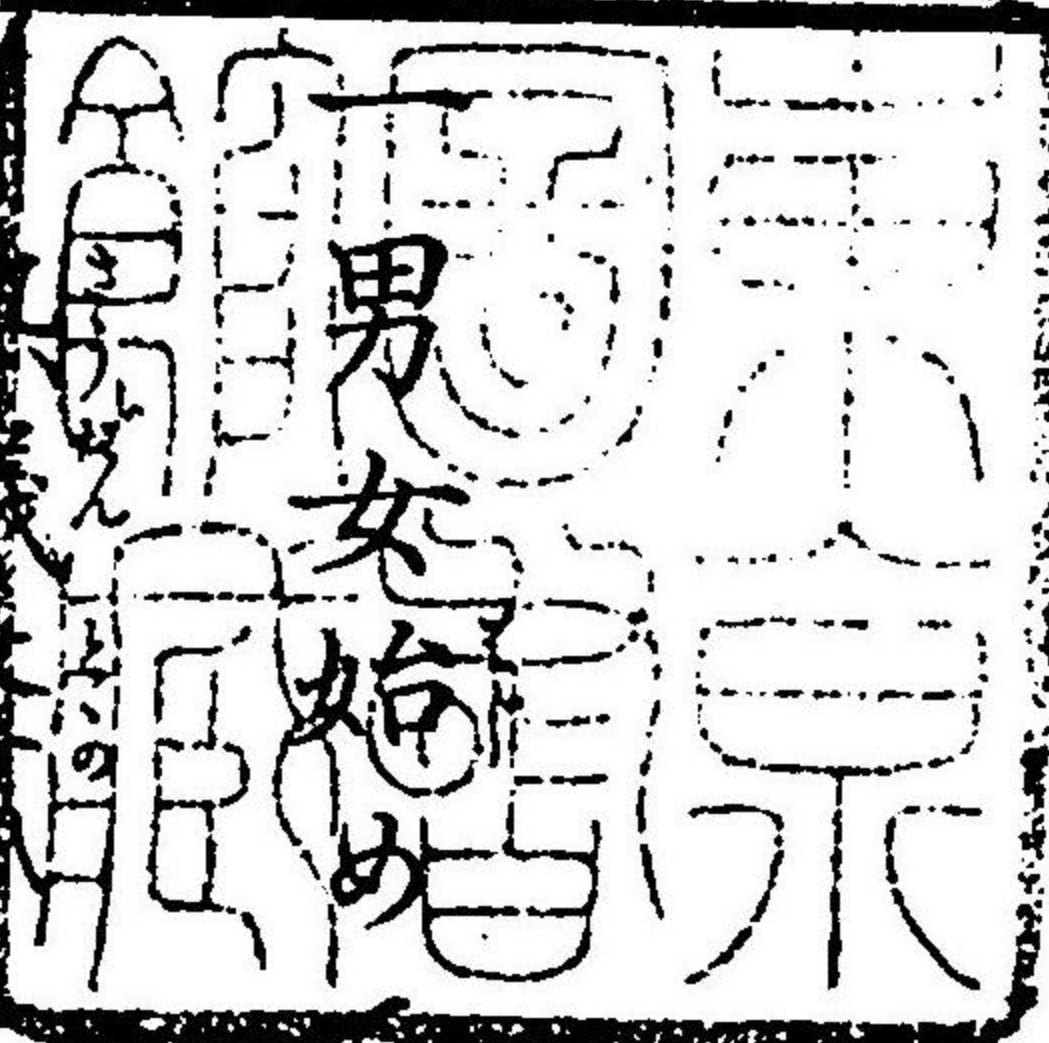
え吾皇國みまのくにハいつよも古ふるより是こを重おもき式しきとなして其儀そのぎ

式どりの傳もり來たるもの如くみる所もどかは區々あれは是
は即て政府より撰定給ふ事も有かんと推量り思ひ奉まこと目
前我襖派乃教徒に家々あて其事ねとあそんにて人々此心々に
任せ置え素より非事りもあそむに同トくは敬神の本意
小適之も大概の式を定め置まかしく思ふまゝに世小傳來た
る狀と己の思ふ旨と合せ記し學師もも問ひて如此一本乃書

や爲したる多り但し是はとももら吾襖派の有志者乃爲ふせし
事めて簡易に行ひ安き哉主としてたせば世の識者はいかにぞ
や思ふ婦もあそむけまこと見む人其心を得てよ

明治十八年四月

○婚姻例



坂田安治述

男女始末 婚姻を取結むんとするに在りて双方親族は

兼議整ひたる上めて吉日を撰びて結納の儀を行ふ

處しとて結納ハ貫ひ受る方よりまづ贈るものな

り此式を行ひて後は既小夫婦の約束とす乃ひ一物

なきは相互に其約を違ふべし

但し往方よりは婚禮の當日土産とくも小報物を送りてもよろし

一媒人の男女二人を善とに

一媒人の大義を取持整治する任なれば雙方乃状態を能申告て假初よも詐偽言ふと爲べからず實直に談り合て永續の事を議るべく世諺よ偽言をるをナカウドグチといひて賤めり慎むべし

一男女ともに衣服調度の類を美麗小飾る事一世れ大禮なれば惡きぬハあらざれども人たのく身の分限あり不相应こと有るハ却て他の嘲を受る物なり上位人を知らず士農工商ともに衣服調度をとらて善とせぬ禮を厚くする事を善とする唯寒暑乃患いなく身を保ちを安く世を經る可人の幸福なきは無益小物品を費も事あるれ世上婚姻乃禮よ身分を

も顧みど驕奢の習慣あまげ能く心を用ふべし衣服
をはぐめまぐてたゞ清浄乃物を善とす
一日定まるとて婚禮を爲ふハ先當日神前及先祖の靈舎
を祓ひ清め産土神社の神官又ハ教導職を頼と其時
刻に婚姻式祭典を行ふべし

但し祭式乃時刻ハ則ち婚姻の期なれば以前より
申合せ置て雙方ともに刻限違はざるやうに能く

注意を

○婚姻式祭典次第

先正牀小神座を設け祭官新夫婦媒人雙方父母親族等

神前ニ列座す神座ハ正牀小神座の軸を挂ると普通と

座ハ第一圖席順ハ第二圖を見て弁ふべし

次鹽湯行事神前をほつめ席上四方を清む

次被詞被主ハ心中に被所四柱の大神を祈り奉りて後被詞を奏すべし

被詞

挂卷母畏伎神伊邪那岐大神筑紫乃日向乃橘乃小門乃
 阿波岐原尔禊祓给比之時尔生座留被戸大神等今日此
 家尔婚姻式行牟止爲互御祭仕奉留神官導職ハ教乎始米
 互妹背及親族諸我身尔過犯世留罪穢在牟乎婆被给比
 清米給開止申事乎聞食世止畏美畏美毛白須
 次降神
 二拜 拍手

此間奏樂 時宜小因り略きて
 も有べし以り下同ト

但し是ハ新小神座を設けて式を行ふ時の事な
 り前條にいへるも一家の神前まで行ふは此
 神たちの神靈も祭りて在るべく特小降神ハ
 及ぶべ然る時ハ昇神式をなきて宜しき事勿論
 なり

降神詞

挂卷母畏伎天御中主大神高皇産靈大神神皇産靈大神

天照大御神伊邪那岐大神伊邪那美大神及産土大神暫
時間是乃神床尔天翔里降来鎮里座坐世三度繰返止畏
美畏美毛白須二拜拍手

次神饌を供す 五臺○第一神酒○第二洗米○第三田つ
くり巻をるめ結び昆布○第四菓物野菜

第五鹽水

此間奏樂

次祝詞を奏以

祝詞

是乃神床尔齋奉里令座奉礼留挂卷母畏伎皇神等乃御
前尔慎美敬比畏美畏美毛白左久天地初發乃時天津神
乃御事任尔依互伊邪那岐大神伊邪那美大神二柱命國
乃八十國島乃八十島八百萬神及青人草萬物乎毛生成
給比事始米給比志御手振乎畏美承繼伎神習布天乃益
人彌益々尔蕃息榮牟家乃真柱動奴堅止妹背乃契契結

毘豆 此家乃息子某或ハ息女某尔ハ何某息女某或ハ上乎
 令娶 止須故今日乃此日乎生日乃足日止祝定豆先大神
 等乃御前乎齋比奉里拜美奉里禮代乃御幣御酒御饌種
 種乃物乎捧奉良久乎平介久聞食豆妹背二人我中和美
 睦毘赤玉乃赤心尔白玉乃白髮生留麻傳相共尔壽命長
 久務米結里豆生子繼々蕃息令榮給閑止親族諸毛打集
 比豆同心尔乞祈白須事乎安介久聞食豆夜乃守日乃守

尔ハ守護幸問給閑止今日乃齋主任布留官職姓名嚴矛中
 取持豆畏美畏美毛白須 二拜拍子

次島臺を据う島臺ハ自凝島になづらへての設けあり
 作りざまハ松竹梅鶴龜を飾るなど通例
 其所の便宜に
 まかまへ

次神饌を撤す祭官第一第三の臺を撤
 島臺の前小据置く
 次酒杯臺を据う酒杯二つ白木三方小載
 せて持出前の所置置く

○結婚式 第三圖に依りて席を定む

席定りて祭主より命^{ついで}て各々一禮^{頭を垂して}慎^めるのみす媒^{さう}
人^{うと}男^{をとこ}夫^{をとこ}をいざなひて島臺乃左^{ひだり}りの脇^{わき}神前^{かみまへ}は向^{むか}ひて
小座^{こざ}せしめまゝ媒人^{まへいん}女^{をんな}婦^{むすめ}をいざなひて同^{どう}トく右^{みぎ}り
の脇^{わき}は座^ざせしむ然^{しか}して媒人^{まへいん}男^{をとこ}上^{かみ}の酒杯^{さかづき}を執^とり夫^{をとこ}に
進^{すす}め神酒^{かみい}を参^{まゐ}らせ媒人酌小男小命して次^{つぎ}に媒人^{まへいん}女^{をんな}
下^{した}の酒杯^{さかづき}を婦^{むすめ}にもくめ同^{どう}トく神酒^{かみい}を参^{まゐ}らせ酒酌小女
の如^{ごと}く前^{まへ}まゝ昆布をるめ田作を夫婦に進め参らせ

其夫^{そのとこ}の持^もてる杯^{さかづき}を婦^{むすめ}に授^{さづ}け婦^{むすめ}の持^もてるを夫^{をとこ}は参^{まゐ}ら
ま^か如此^{かくのごとく}して媒人^{まへいん}夫^{をとこ}の杯^{さかづき}を乞^ことまゝ島臺^{しまだい}の右^{みぎ}りは上^{かみ}
小^こ置^おき神前小向ひてな婦^{むすめ}の杯^{さかづき}をこひとまゝて同^{どう}トく
左^{ひだり}り乃^{すなは}上に置^おき是^こ神^{かみ}の御^み由^{よし}縁^{ゆかり}あまは酒^{さけ}杯^{さかづき}を行^い通^{とほ}
はもるも其^{その}小^こな然^{しか}して媒人^{まへいん}夫^{をとこ}婦^{むすめ}をいざなひて元^{もと}の
席^{せき}に着^きくべし第二圖の席^{せき}順^{つら}なり

次拜禮

祭主夫婦に令して神前を拜しむ夫婦ハ左り右り各々二拜
拍手竟りて木の席小着く

次祭官拜禮

次昇神

昇神詞

挂卷母畏伎天御中主大神高皇產靈大神神皇產靈大神
天照大御神伊邪那岐大神伊邪那美大神及此地乃產土

大神各毛各毛『天翔里本乃御座尔復里鎮里座坐』世三度
申止畏美畏美毛白須二拜拍手

右の式終りて祭官ハ退く

○告名の事

父母兄弟順次に新夫新婦小對面て酒杯を取通し
一孰も媒人取持て尊長の方より授くるを卑下此
者受て參らざるを例とて親族乃告名ハ一人毎に爲

どして總代かこり雙方夫婦のより一人づゝ開ある方可よかる

るゝ又親族相互たがひの對面まへも次つぎて為なるべし

次夫婦靈舎拜禮

拜禮らいらいもみて別席べつせきみて休息きゅうし隨意じゆいたるべし

次直會祝儀

夫婦たうふう高盛たかたか祝膳しゆぜんの事ことあり其そのハ所々ところどころ乃仕來しきた里さとに寄よて行かる

へ然しかして各々おつづ懇親こんしん祝宴しゆえんを開ひらくべし

○附言

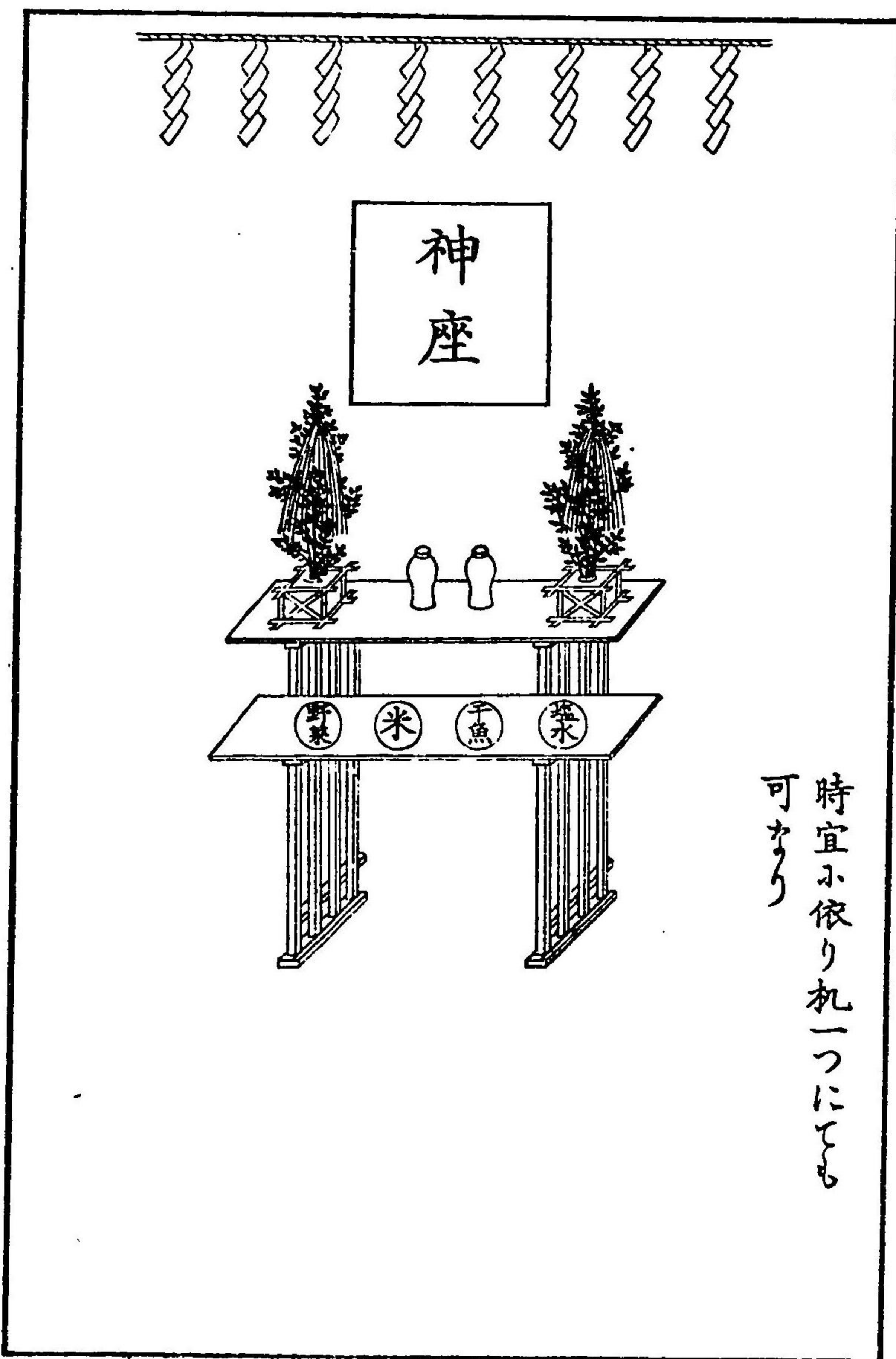
一婚禮こんらいの事こともして後のち三さんつ目め又五ごつ目めかど、唱なへて夫

婦めかけ打連うちづらて里開さとひらきゝ父母親族ぼふしんぞく新客しんきゃくの儀ぎあり是こハ三日

目五日目めごにちめに限かぎるべしらば雙方たがひ時ときの宜よろきを議ぎして行おふ

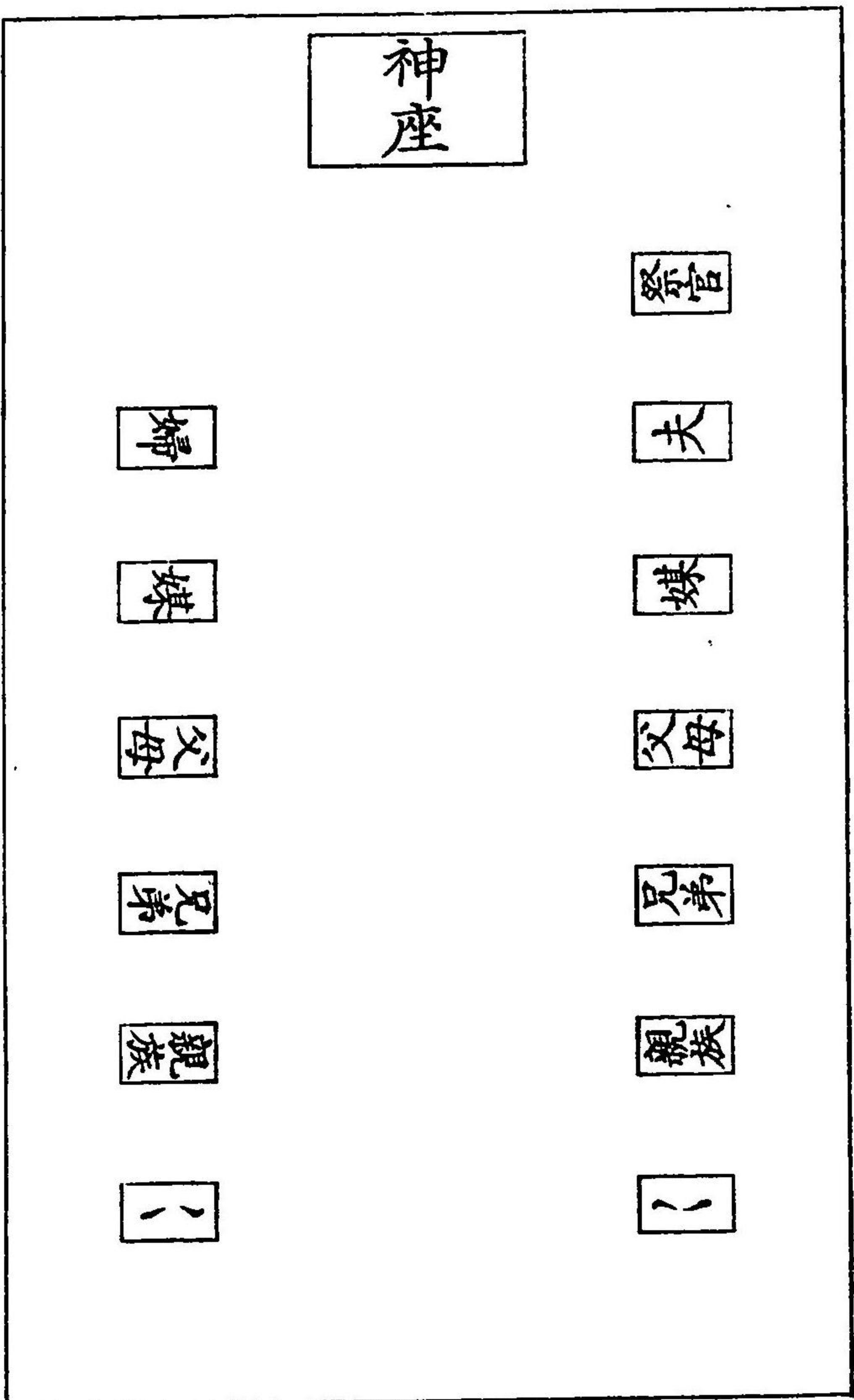
るゝ尤なほも驕奢かうせを慎しんむべし

第一圖

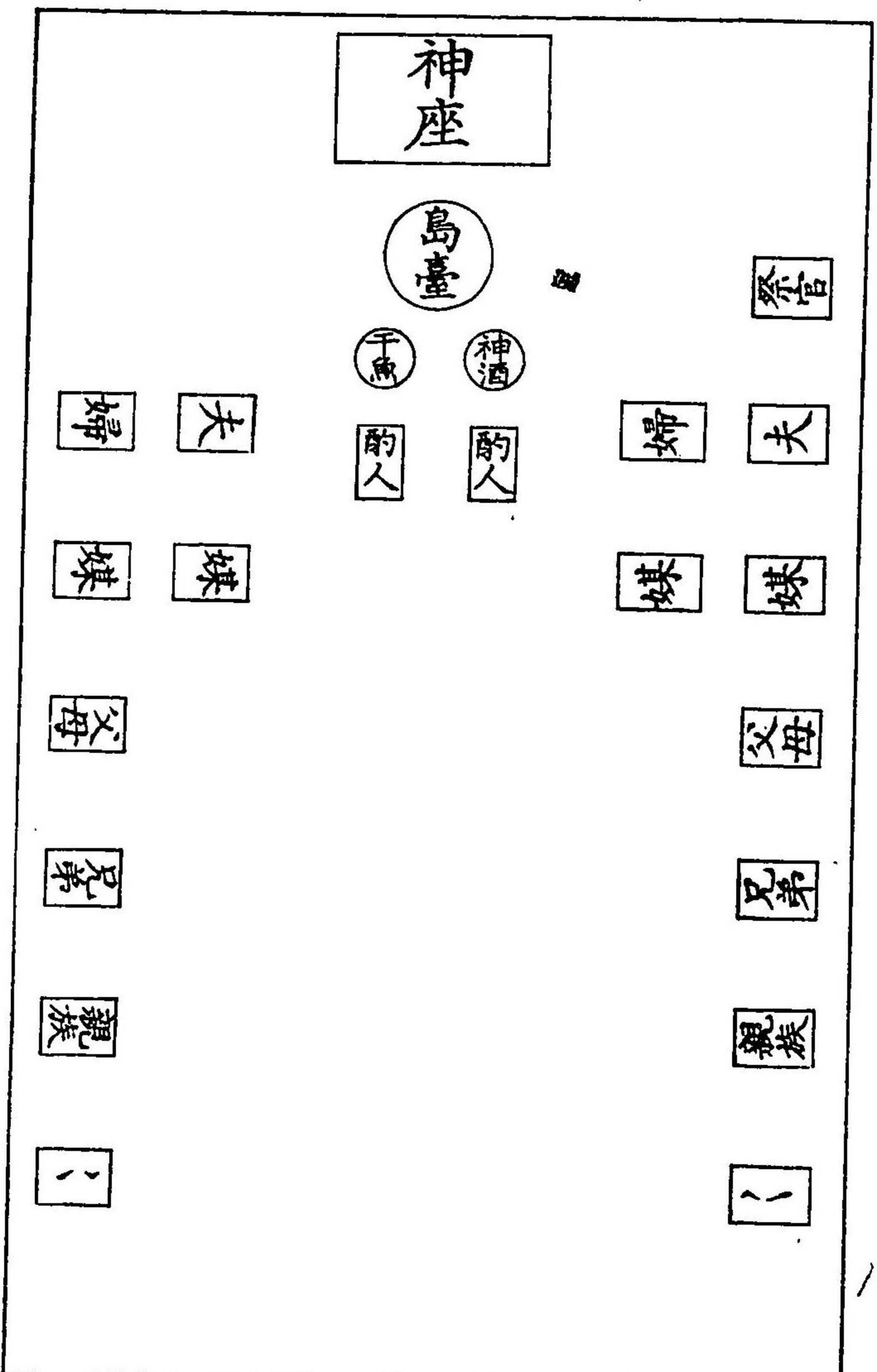


時宜小依り机一つにても
可なり

第二圖



第三圖



婚姻例附録

○略式祭典次第

但し祭式ハ新婦或ハ新夫の來らざる以前其約せる刻限
 より一二時に先これを執行し置て新婦或ハ新夫
 の來るを待ち別席ふて暫時休息の上直ニ本
 卷第三圖の如く神前に列して結婚式を行ふ
 然まども是を祭典式を略小するの事

附録

一と告名式其他の儀ハ凡て本式乃方に隨ふ
座

先神座を設け前ニ鹽湯を置く
神座ハ家の神前或ハ座敷の床乃間を神前と云

次鹽湯行事
神前を右トめ席上四方を清む

次降神
家の神前小て行ふハ特に降神小ハ及むざる事勿論なきは後の昇神もふくて宜くき事と心得べし又降神詞ハ

本卷ニ就て見べし

次神饌を供す
神酒○洗米○卷をもるめ結毘布○菓物野菜○鹽水等なり

次祝詞を奏は

祝詞

是乃神床尔齋奉里令座奉礼留挂卷母畏伎皇神等乃御
前尔慎美敬比畏美畏美毛白左久天地初發乃時天津神
乃御事任尔依互伊邪那岐大神伊邪那美大神二柱命國
乃八十國島乃八十島八百萬神及青人草萬物乎毛生成
給比事始米給比志御手振乎畏美承繼伎神習布天乃益

人彌益々爾蕃息榮牟家乃真柱動奴堅止妹背乃契契結
毘豆此家乃息子某或ハ息女某爾何某息女某或ハ上乎
令娶止須故今日乃此日乎生日乃足日止祝定豆先大神
等乃御前乎齋比奉里拜美奉里禮代乃御幣御酒御饌種
種乃物乎捧奉良久乎平介久聞食豆妹背二人我中和美
睦毘相共尔壽命長久務米結里豆生子繼々蕃息令榮給
閉止齋主官職姓名嚴矛中取持豆畏美畏美毛白須二手拜

次島臺を据り

次神酒并するめ昆布の臺を撤し島臺の前小据置く

次酒杯臺を据り白木三方小載て持出
島臺の前小据置く

○結婚式此時本卷第三圖の如く神前
小列座して式を行ふべし

是ハ式の次第本卷小委曲に記し在まハこゝハ
略けり熟本式を見て行ふる此以下次々の式も
皆同ト

次夫婦拜禮

次祭官拜禮

次昇神 昇神詞ハ本卷ニあり其行ハ方ハ降神の條を見合まべし

○告名ツクリの事

是ハ父母兄弟ついで順次ついで小夫婦に對面あひむて酒杯を取通と儀いなり其次第本卷ニ委まかし

次夫婦靈舎拜禮

拜禮まゐりて別席わかりて休息隨意やすたるべし

次直會祝儀

夫婦高盛祝膳の事あり其所々の仕來つかり寄よりて行へ然しかして各々懇親祝宴を開くひらべし

結納書式

細帯 純唐子 名媛 印緒 絢 異市 引板 引指 沛
 以上

一 一 一 二 一 一 一 一

折筋表表足抱打打

○結納目録は目録
 表より或は終り
 い履きよりその
 の便宜よりすべし

○嫁入者物目録は
 名を記さず立目
 録をとりしは基
 小及まず

○婿の方より婿お
 去る目録は妻書
 と双方の名を記
 したる一何れも
 は六段の圖より
 するべし

道具目録

箆 筒 長持 帯箱 衣箱 屏風 琴 狭箱 葛籠 雜長持
 以上

何対 何持 何個 何組 何双 何面 何対 何持

附録

〇十七

同畧式

結書	一
帯	一筋
袴	二抱
麻袴	一折
昆布	一折
引板	一折
法標	一巻
以上	

○目録のよき種、
文字と括弧を合
せて用いるあり
たゞふつふつと
ある様男袴
着るめ等の類
なり、ぬら悪き
ふらわらふるを
けきと普通通乃
文ありて法標
經る千板と
やうに書かざる
正し

道具目録	
箆笥	何對
長持	何牌
杖箱	何對
浸臺	一個
針箱	一個
以上	

結納受取目録

目録	
以上	
右寺目録	
左納付目録	
月日	
何之推取	

附録

荷物目録	
以上	
右寺通法取中	
月日	
何之推取	

〇六

明治十九年四月二日版權免許
同年同月出版

神道禊派本院藏書



著者 大講義坂田安治

東京下谷區西町一番地

本院擔當

出版人 權中教正坂田鐵安

東京下谷區西町二番地

定價金一拾錢

